













## 田隆寺とわらわら踊り

本寺は正覚山田隆寺と称する天台宗のお寺で、初代富山藩主、前田利次公の富山城入り以来、代々前田家の祈願所としての格式をもっていた。はやり病を払うという京都の茶園さまや、女性の川流れ除けの神とされ、「かわうそ大明神」の呼び名で親しまれている如意輪観世音菩薩坐像を祀り、特に女性の参詣が多い。

さんさい踊りは、毎年七月十四・十五日の両日田隆寺の祇園会の宵に、同寺の境内を中心にくりひろげられる盆踊りで、女の子だけの盆踊りというのでは全国的にも珍しい民衆芸能といえる。この踊りの起源は利次公が初代藩主として入城した寛永十六年（一六三九年）頃であろうと伝えられる。「サーイサンサイ、ヨンサンヨヨナイ」というほやしごとはには、「もう佐々（成政）の世ではない」という、前田家の治世を諷刺する意味あいがこめられているという。

### ●富山市無形民俗文化財

さんさい踊り（昭和四十六年三月指定）

### ●富山市有形文化財・彫刻

如意輪観世音菩薩坐像（昭和五十四年三月指定）

富山市



















































































































































































